

平成26年3月町議会定例会一般質問通告概要

※ 質問順番

(H26.3.12~13)

1番	村田 昭	議員	6番	坂井立朗	議員
2番	内山 昭	議員	7番	澤井峰子	議員
3番	後藤智文	議員	8番	亀山 彰	議員
4番	石田孝夫	議員	9番	村上紀義	議員
5番	広島秀一	議員	10番	岡田健治	議員

1番 村田 昭 議員

1 町長3期目の町政推進の考え方、目標、意気込みについて

超高齢化社会を乗り切れる、質の高いまちづくりに向けてどのような考え方をもって取り組むのか。目標、意気込みについて問う。

2 平成26年度予算について

予算の基本的な考え方、柱に据える事業、力点を置いた事業は何か。

3 行政改革の推進について

行革の基本は、職員の意識改革である。第4次行革大綱答申をどのように受け止め、どのように取り組むのか。

4 小学校の適正配置計画について

少子化の中、適正な学校配置を行うべきである。審議会の検討状況はどのようなか。答申を受け、今後どのように対応しようと考えているのか。

5 新五百石保育所の運営について

民営化にあたっては、入所児や地域に対する事前対応を十分講ずること。また、今後の保育所配置について、どのように考えているのか。

6 北陸新幹線開業関連して

- (1) 立山アピールの絶好の機会であり、町や関係機関あげて対応を検討すべき。
- (2) 長野県や大町市と連携したアルペンルートのキャンペーン・イベントの実施、またJRと立山線のセット旅行商品開発等について、関係機関に提案すべきではないか。

7 台湾トップセールスの手ごたえ等について

台湾観光客は、白い雪の壁や露天風呂へニーズが強いと聞く。今回訪台の手ごたえ、こうしたニーズへの対応について問う。

8 お年寄りに優しい施策について

マニフェストに「元気な高齢者がいっぱい町を目指す」とあるが、具体的にどのような施策に取り組むのか。

9 入浴施設アンケートについて

入浴施設アンケートの結果概要と今後の対応について問う。

10 困っている人を支援しようとする町長の思いについて

- (1) 東日本大震災発生後の瓦礫処理支援のための町の取り組みなど、3年間を振り返っての感想を問う。
- (2) 町政運営にあたり、本当に助けが必要な人をしっかりと守る町長の思いを問う。

2番 内山 昭 議員

1 P T Aによる古紙回収が難しい地区について

少子化により、P T Aによる回収担当区の戸別回収が難しい地区は、古紙回収日に住民各自が地区リサイクルステーションもしくは、都合のよい日に役場南側のリサイクルステーションに持ち込んでもらうよう対応できないか。

2 剪定枝の収集方法および可燃ごみの減量化について

剪定枝をごみ収集箱の中に入れず、外に置くよう徹底をはかり、これをチップ化し、バイオマス燃料として使用することで、ごみの減量化をはかってはどうか。

3 町中心部における入浴施設の在り方について

平成26年度地方交通対策事業予算で、3,216万円が計上され、各地から吉峰を結ぶ、町営バスが7便から10便に、お出かけワゴンが週2日から週5日に増便された。ワゴン車も1台から2台へ、運転手も1人から3人体制となったとのことであるが、当面この方向でいくととらえてよいのか。

3番 後藤智文 議員

1 町民の生活向上のために

(1) 固定資産税率を元に戻し、町民の負担軽減を

- ①教育施設充実のために固定資産税率を上げてきているが、当初の目的は達成できたのではないか。
- ②固定資産税率を元に戻し、毎年約5千万円の住民負担はなくすべきではないか。
- ③もし、このままずるずると続けるとしたら、一度税率を元に戻して改めてその是非を問うべきではないか。

(2) 国民健康保険税の引き下げを

- ①この4年間で40%も値上げされ、払いたくても払えないという声を多く聞く。住民に寄り添って国民健康保険税を少しでも値下げして負担を軽くすべきではないか。
- ②国の制度で、低所得者保険料軽減の拡充が図られるが、町民へほどの程度影響するのか。

(3) 住宅リフォーム助成の制度化を

- ①住宅リフォーム制度の広がりによって国も新たな制度を設けた。町内の業者と町民を応援するために、住宅リフォーム助成制度を町としてもつくるべきではないか。
- ②上市町や朝日町などの取り組みを参考にしてほしいと思うがどうか。

(4) 街中に銭湯を

- ①町民アンケートを取られたが、何故この時期にされたのか。
- ②その結果はどのようなになったか。
- ③私たちが行ったアンケートにも、「街中に銭湯を」の声が多い。高齢者福祉の観点から、町として銭湯をつくるべきではないか。

(5) 災害復旧時の地元負担の軽減を

災害は個人の責任ではない。災害に遭った用水や田畑に関して、地元負担の費用の軽減率を高めるべきではないか。

2 子育て支援のために

(1) 中学3年生までの医療費無料化を

- ①昨年12月議会で発言した中学3年生までの医療費助成が、当初予算に計上されていないのはどうしてか。
- ②月1000円負担から1割負担に変えられたが、小学生の親にとって実質の負担増になるのではないか。
- ③県内5町村では、立山町を除いてすべて中学3年生までの入院・通院費は無料になり、高岡市など県下に広がっている。子育てしやすいまちづくりのために、所得制限なしに個人負担をなくし、無料にすべきではないか。
- ④無料化した方が、役場窓口での手続きはしないで済み、かかる経費も減ると思うし、何よりも親の負担がなくなると思うがどうか。

3 町農業発展のために

- (1)「米の直接支払交付金」が半減された場合の町農業への影響はどうか。
- (2)「生産調整」(減反)の廃止は町農業を一変させるが、町独自としてどのような対策を考えているか。
- (3)「農地中間管理機構」は、町農業を破壊すると思うがどうか。
- (4)家族経営を基本に多様な担い手づくりをすることが、町農業の発展につながると思うがどうか。

4 安全な町にするために

- (1)町道宮路支線(高島宅前)は、ずっと地区要望として出されている。今年も数回、車が田んぼに落ちているが、早急に改善すべきではないか。
- (2)岩峠寺1号線の宮路地区のY字路は幅が狭く、脱輪が多く起きている。今年も雪の中で何度か脱輪していたが、早急に拡幅すべきではないか。

4番 石田孝夫 議員

1 立山町総合公園シンボルロードの早期開通について

立山町民や地区外・県外の方が安心して立山町総合公園に訪れることが出来るよう、工事の凍結を解除され、野沢から江崎までのシンボルロードの早期着工を願うものであり、町長の考えを問う。

2 サービス付高齢者住宅の区域外指定等に関する基準の整備について

国の基準で住所地特例の整備が整うまでは、地区外の方がサービス付高齢者住宅に住所を移さないよう、立山町は大至急、サービス付高齢者住宅に区域外指定等に関する基準を設ける必要があると思うがどうか。

3 がん検診について

立山町のがん検診の取り組みのなかで、乳がん検診だけは、集団検診と富山県健康増進センター・かみいち総合病院での施設検診に限られているが、民間の病院でも検診ができるようにできないか。

4 平成26年度当初予算について

- (1)当初予算編成の基本的方向・視点について
- (2)一般会計予算の歳出について
- (3)一般会計予算の歳入について

5番 広島秀一 議員

1 地鉄立山線の利用者増について

- (1) 動く美術館電車「立山あーとれいん」の運行は、どの時間帯か。写真などの展示はどのようにするのか。
また、多手山プロジェクトの目的と効果は。今後も継続するのか。
- (2) 立山線沿線の各駅の駐輪場・駐車場を整備して、電車利用のしやすい環境をつくるのが大切だと思うが、現在の整備状況と今後の計画はどうなっているか。
- (3) 北陸新幹線の開業に合わせた取り組みとして、新幹線・立山線・ケーブルカーで立山へといったツアーで、外国の観光客に羽田から新幹線に乗って立山へ又は、富山空港からは立山の帰りに新幹線に乗って関東へ行くような旅行の企画をすれば、立山線の利用が増加すると思うが、町の利用者増加につなげる対応策は。

2 下段体育館について

下段体育館の建設が26年度予算に計上されている。次の内容について、町の方針を聞きたい。

- (1) 工事の着手と完成はいつごろなのか。
- (2) 完成後の体育館の管理運営は誰がするのか。
- (3) 使用料はどうか。
- (4) 下段地区以外の町民も利用できるのか。
- (5) 武道館・友情館取り壊し後の、体育館・駐車場・グラウンド等全体の整備計画と配置はどうか。

3 橋梁の安全対策について

道路に架かる橋梁の点検結果とその状況はどうであったか。

- (1) 町内の橋梁の現状は、どうなっているのか。
- (2) 長寿命化修繕計画の策定に基づいた、今後の修繕計画はどうなっているのか。

6番 坂井立朗 議員

1 立山の排ガス規制について

- (1) 県に依る今回の規制の導入に関し、地元の町長としてどのように評価するのか。
- (2) 今回の規制に関し、町としてどのように関わっていくのか。
- (3) 環境の保護と入り込み客の増加。二律背反とも思えるが、どのように取り組むつもりか。

2 教育問題について

- (1) 土曜授業の復活の活動が加速しているが、町としてどのように考えているのか。
- (2) 先ず、町長の提案する、長期休暇の短縮を優先すべきと思うが。
- (3) 若手教員の指導力向上への取り組みは。（「授業の達人」や町長が提案した「互見授業」への取り組みについて。）

3 農家民泊について

受け入れ農家の状況は。また、安全衛生上等の危機管理への対応は十分か。併せて町としてどのように支援していくのか。

7番 澤井峰子 議員

1 子ども医療費助成拡充について

- (1) 新年度予算にインフルエンザ予防接種費の一部助成が今年10月より小中学生対象に実施されるが未就学児が対象にならないのはどうしてか。
- (2) 中学3年生までの通院医療費助成の拡充を、10月診療分からの適用を目指すところがあるが、いつの時点で適用だと判断されるのか。
- (3) 負担1割とあるが、無料化にすべきではないか。

2 乳がん・子宮頸がん検診の「コール・リコール制度」について

- (1) 厚生労働省は、がん検診受診率向上にむけ、乳がん検診、子宮頸がん検診の無料クーポンを受け取っても受診しなかった女性を対象に2014年から2年間かけ無料クーポンを再発行して受診を呼びかける取り組みをする。同時に未受診者への勧奨を行う「コール・リコール制度」を導入するが、立山町の制度導入への見解を問う。
- (2) 年代の若い対象者や仕事を抱えている対象者の多種多様な生活スタイルを思うとき、受診しやすい環境が必要であると考えるが、受診率向上への対策を問う。

3 がん教育について

- (1) がん教育の現状と具体的な取り組みについて問う。
- (2) がん教育の強化と今後の取り組みについて問う。

4 地域包括ケアシステムについて

- (1) 団塊世代が75歳以上となる2025年を見据えて各地域の実情に応じた「地域包括ケアシステム」構築にむけ、国や県が本格的に動きだしている。サービスを受ける側にとっては理想的な内容である。急務と言われるこのシステム構築への見解を問う。
- (2) 訪問介護・通所介護が地域支援事業として市町村に移行し、「24時間対応の定期巡回・臨時対応型訪問介護・看護サービス」を立山町で確立できるかを心配する事業者側の声がある。サービス低下を防ぎ、介護職の処遇改善や人材育成・人材確保を求める現場の生の声を受け止め、活かせる体制が必要であると考えるがどうか。
- (3) 多種多様な生活支援サービスを提供することが求められる中で、現在でもボランティアや地域の方が中心に活動をしている。こうした携わる人口をいかに地域で増加できるかが課題であるように思う。町としての考えを問う。

5 町民に寄り添う生活支援の充実について

今、ここバスやおでかけワゴンでの生活支援が行われている。今後、入浴施設への路線等を増便することで、入浴で困っている方への支援をとのことであるが、

- (1) 立山町中心地区における入浴施設のアンケート調査はいつ頃集計され、結果を知ることができるのか。
- (2) バス停までなかなか移動できない方の為にシルバータクシー(仮)導入の検討が必要であると思う。今後、地域包括ケアシステム構築により、幅広い分野での支援が必須となる。利用者のニーズに応えられる住民の足が大切であると考えるがどうか。

8番 亀山 彰 議員

1 町内の公共施設等の整備の考え方について

下段地内の体育施設について、身の丈にあった行政の視点からは、施設の新・改築の中身の検討が必要。稼働率の高い町民体育館など中学生も利用する耐震化不足の類似の体育施設等、公共施設のあり方等について問う。

2 立山黒部ジオパーク推進協議会などの広域圏での活動に積極的参加を

県東部の市町村エリアで認定を目指す、「立山黒部ジオパーク構想」に積極的に参加を。広域でのPRは、富山の観光拠点として立山町の魅力につながり、町長の台湾でのトップセールスに匹敵する効果があると思うがどうか。

3 パークアンドライドの駅駐車場に融雪が必要である

主要施策事業に岩嶺寺駅パークアンドライド駐車場の鉄道等維持活性化事業が計上されているが、冬場の降雪にそなえ消雪装置の設置するべきでないか。

4 県道6号線下田バイパスに街灯をつけるべきでは

グリーンパーク吉峰など(株)たてやまに管理委託をしているが、夜間、立山森林組合側からの交差点が分かりにくく、通り過ぎてしまう事がある。お客様の立場を考え、街灯を設置すべきではないか。

9番 村上紀義 議員

1 福祉対策について

(1) 「いのちのバトン」は、一人暮らし高齢者を主に登録し、高齢者の緊急時に必要な医療情報、病歴、連絡先を提供し、救急隊員が迅速に搬送、病院の受け入れをスムーズにする事業。搬送時間も短縮できるメリットがあり、射水市など他市町でも取り組んでいる所がある。

当町では高野地区社会福祉協議会が町消防署の指導をうけて、容器内情報の定期的更新など、安心・安全のネットワークづくりの一環として取り組んでいる。他地区も注視しており、町としての導入と支援を問う。

(2) 団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年問題。老老介護、認知症同士の介護。人生最後の10年問題とも言われる。町として健康で長生き（健康寿命）を伸ばす支援策を問う。

健康寿命と平均寿命の差をいかに少なくするかが大切だ。地区社会福祉協議会は、小地区サロンの支援、生き生きサロンを開催して健康管理、認知症、ボケ防止等の予防に取り組んでいる。また、孤立死防止策としてケアネット活動を通して一人暮らし、高齢世帯の見守り活動に努めているが制約を感じている。町としての支援と考えを問う。

2 農業施策の大転換について

(1) 舟橋町長は農業分野で、若手後継者をしっかりと支援していくやる気がある人。

また、農地の基盤整備、農地の集積支援、6次産業化をさらに推進し、農家の所得向上や農作物のブランド化など農業に対する強い熱意を感じる。

町長の思いを聞きたい。

(2) 今、国の農業施策が大転換し4つの改革が行われる。農地中間管理機構の創設、経営所得安定対策の見直し、水田フル活用と米政策の見直し、日本型直接支払制度の創設であり、町として今後何を重点に支援策を進めるのか。

26年度から米の直接支払い交付金が単価を7,500円/10aに削減。まじめに制度参加する農家にとって、情報不足から不安がついている。小規模農家の切捨てとも叫ばれるが、町として今後の総合的支援策について問う。

(3) 減反について、具体的な数字が出てきた中で、中核農家、畜産農家では飼料用米、特にWCS用稲の作付けの拡大を希望していると聞く。今年度は畜産農家と直接契約のWCS用稲の作付けが増えると聞けるが、面積的配分は可能か。

25年度の作付け面積は、備蓄米113ha、加工用米75ha、飼料用米76ha、WCS用稲76ha、また、従来からの基幹作物の大豆146ha、麦120ha、そば28haの作付けだった。今年度は、基幹作物が減少するのではと危惧されているが、町としての考えを問う。

(4) 新制度の多面的支払制度の農地維持支払いに、2,550万円が予算計上されているが、計画予定面積と現在の加入面積を問う。

3 安全・安心のまちづくりについて（通学路の安全対策について）

(1) LED防犯灯への切り替えは、25年10月以降3,453箇所と聞く。取替え作業は年度内に終わるのか。

経費の削減、安全面の充実から、26年1月より既存の防犯灯については町管理と聞くが、民間宅地造成地内に設置された防犯灯についての今後の対応はどうなるのか。

(2) 町管理に移行された後の、LED防犯灯の新設・増設対応について問う。

移管前から経費的に苦慮していた路線等、特に集落間については延長距離が長かったり、中学生の通学路でもある上米沢・淵上線は270m近く電柱等がなく、新たに支柱を必要とする所もある。

また、既存の取替えにより設置間隔が広い箇所も見受けられる。緊急性を要する箇所等については、優先順位の配慮が必要である。また、誰がどのようにして設置・修理依頼するのか。

26年度の新規設置について、新設・増設数及び予算は。特に防犯上緊急を要する取り付け箇所の対応を問う。

LED化によって年間で経費をいくら削減できるか。

4 防災対策について

予期せぬ災害が、最近国内各地で起きている。災害といっても暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震と色々ある。幸いにしてわが町には甚大なる災害がなく喜ばしい。災害は忘れた頃にやってくるという。

町では、地域対応の防災訓練を毎年行っているが、もう少し底辺を下げ、できれば集落単位、特に高齢者の身近な緊急避難場所への誘導、確認など、町として避難訓練の支援、指導ができないか。

また、町全体としての自主防災組織率及び校下別の組織率はどうなっているのか。集落の防災マニュアルの見直しも必要と思うが町としての考えを問う。

10番 岡田健治 議員

1 立山町の人口についての所感は

どんどん減り続ける人口に対してどう思っているか。

平成3年を境に、出生数と死亡数が逆転して、人口は減る一方だ。1000人あたり

の出生率は、5.6%で富山県内の最下位。合計特殊出生率も1.18であり、県内の平均を大きく下回っている。人口を維持できる水準の2.07の半分でしかない。

先月開催された国の経済財政諮問会議の小委員会では、100年後の日本の人口は、4,286万人に減ると推計している。

同率なら、予想される100年後の町の人口は、9,200人位と思われる。動植物で言うと「立山町民」は絶滅危惧種のイエローブック、レッドブックに記載されるくらいである。人口減に対して、施策を講ずる必要はないか。

例えば、町外に働きに出るものには会社からの通勤費のほかに、町からも通勤費を援助したり、婦中町のように大型ショッピングセンターを誘致するなど「若者が定住する町」「若者がリターンする町」として、施策を講じるべきでないか。

2 通訳案内士の養成や増員について

地域活性化のために、外国人観光客を呼び込もうとする観光地市町村は最近多くなっている。全国でも「おもてなし」ということだろうが、富山県にあってもそうだろうと推測できる。

立山町の山岳観光も、2020年東京オリンピック開催に向けて、外国人の来日が多くなっていくことが予想されるが、この機会に立山町独自のボランティア通訳を養成する気はないか。

また、立山ガイドやりんどう会等も研修プログラムに拠っては、通訳案内士に成りえるのでないか。国際観光都市「立山」としての頑張りを期待したい。是非、養成に取り組んでいただきたい。

3 学校図書館司書の増員と図書予算の増額について

幼児教育や学校教育の充実を図るべく基礎学力の向上を目的とした「立山プラン」が推進され、学校にスクールケアサポーターやスタディ・メイトの配置のほか、「立山塾・放課後学習教室」の継続提唱もなされているところであるが、各学校に1名ずつの図書館司書の配置も重要な学習向上施策だと思うがどうか。

4 子育て支援策の拡充について

第4子以降の保育料を無料とする「子ども・子育て支援事業計画」の策定等が発表されたところであるが、現在、該当する件数はどれくらいあるか。

せめて、第3子以降の無料化に、早急に舵を修正すべきである。

この少子高齢化の渦中に、前進的かつ積極的な育児環境の整備をお願いしたい。子供を産みやすく、子育てがしやすい町。また、産休育休のあとの社会復帰の道も、女性に取っては重要である。再雇用をする企業の支援策や資金援助などもっと、もっと、拡充すべきと思うが施策はどうか。

5 通学路の安全対策について

学校あるいは保育所周辺の通学路の安全対策に鋭意努力されていることに敬意を表したいと思う。

とりわけ、シマヤ・ジョーシンが出店した利田小学校周辺の町道に歩道の設置工事やカラー舗装等で安全対策を進めておられることに感謝したい。

交通安全看板は、一定の効果を挙げているようだが、シマヤ等の出店にともなって付近の交通状況の変化をどう見ているか。

また、モンベルや100均、ファミレスなどの出店も続くようで、変わり行く交通状況だと思うがこの判断は。場合によっては、町道下利田鉾ノ木線の拡幅を含めて、歩道の設置を急ぐことも考えているのか。